

24-6 経営協議会議事概要

日時 平成25年3月22日(金) 15:00~17:00

場所 総合研究棟Ⅱ・第1会議室

出席者 内田学長(議長)

佐藤, 志田, 多田, 土橋, 西岡, 宮池, 渡辺

武田, 田中, 滝, 朴, 鈴木各理事, 竹田病院長

列席者 中川, 緒方, 江原, 児玉, 住田各副学長, 橋本, 田島各監事

◎ 前回議事概要の確認

学長から, 前回の議事概要については事前に意見集約を行った結果, 特に意見が寄せられなかったことから, 事前送付した資料を平成24年度第5回経営協議会議事概要として, 記録にとどめた旨の報告があり, 了承された。

I 協議事項

1. 中期計画の変更について

鈴木理事から, 本学と名古屋大学及び愛知教育大学との留学支援に関する大学間連携事業が, 平成24年度国立大学改革強化推進補助金の採択を受けたことに伴い, 中期計画を変更する必要性が生じた旨の説明が「資料1-1, 資料1-2」に基づきあり, 審議の結果, 原案どおり承認され, 役員会に諮り最終決定することとした。

2. 平成25年度年度計画(案)について

鈴木理事から, 平成25年度年度計画(案)について, 「資料2」に基づき説明の後, 各理事・副学長から重点事項等についての詳細説明があり, 審議の結果, 原案どおり承認され, 役員会に諮り最終決定することとした。

なお, 学長から, 提出までに更に精査を行うこととし, その際に修正があった場合は学長一任願いたい旨の発言があり, 併せて承認された。

◇主な意見など(○=経営協議会外部委員, ●=大学側)

○情報セキュリティー, データベースのバックアップの話があったが, 大学の情報セキュリティーレベルを, どのあたりに置いているのか, 或いは考えているのかという点と, 危機管理, BCP(事業継続計画)の問題が世間では話題になっているが, 大学はどのように考えているか。

●情報セキュリティーに関しては, 本学では大きく「教育研究ネットワーク」, 「事務ネットワーク」そして「病院ネットワーク」の3ネットワークがある。事務ネットワークには, 学生の成績などの個人情報が多く含まれており, セキュリティーレベルはかなり高くしてあるが, 教育研究ネットワークはあまりセキュリティーを高くすると自由に学問が進まない恐れがあり, やや低めの設定となっている。病院のネットワークは外部接続を完全に遮断したものとなっており, フラッシュメモリーの使用についてもウイルス感染の恐れがあり, 使用不可としている。

●本学の情報セキュリティーについては監事からも指摘があり, 教育研究の部分のセキュリティーなどをどのようにするか検討する必要があるが, 今後, 規約などの整備も含めて, バランスよく考えていきたい。

- BCPについては、厚労省の補正により「地域医療再生支援」が認められたが、その目玉は「災害医療」。東日本大震災では病院の設備が流され、翌日から診療ができなくなったのが問題なので、海岸から離れた土地にバックアップをどう作り、災害時の医療をどうするかを考えている。
- 大学の事業については、学生のデータや実験設備などをどうするかという点ではこれから考える話だが、今のところ、附属農場へバックアップセンターを作る計画がある。また、東海地区の8大学が連携し、災害対応することも話し合われている。
- 大学にも様々な情報システムがあり、管理のためのコストが発生していると思うが、私の会社でも情報システムの管理コストが年間約数十億円必要であり、今、そのコストをどのように下げるかが課題となっている。
1つの方策としては、情報システムはある一定の期間を過ぎるとシステム更新が必要になり、その度に多くの費用がかかる。それを「クラウド」を利用するとサーバーの交換をしなくても良いというメリットがあり、数億円単位でシステムコストが不要になり費用削減できる。大学のこれからの問題として、先ほどのバックアップの問題とシステムコストをどう削減するかという問題について、大学の財政を考えたうえで議論したことがあるか。
- 情報システムについては各大学で対応しているのが実情で、クラウド化については、完全実施しているのは静岡大学のみと記憶している。
クラウド化は利用できる部分とできない部分があると思われるが、コストダウンが図れるのであれば検討していきたい。
- プライベートクラウドというものもあり、これだと三重大学が勝手に利用できるもので、共通化できるものは共通化し、独自システムは独自で残せば、コストダウンにつながる。一度、専門業者から話を聞いてはいかがか。
- 現状ではシステム更新の際、標準パッケージ利用は安価で、独自システムは高価となるので、独自システムをできるだけ抑え、コストダウンを図っている。
- 情報システムにかかる経費を大学の努力でコストダウンさせれば、ダウンした分の経費は大学で使えるのか。
- コストダウンしても、それは契約のための予算残金なので、文科省へ返還することとなり大学では殆ど使えない。
- 文科省は大学の努力に対してインセンティブが働く「しくみ」を作るべき、評価のポイントとして作らないのはおかしい。

3. 平成25年度予算配分案について

鈴木理事から、平成25年度予算配分案について、「資料3」に基づき説明があり審議の結果、原案どおり承認され、役員会に諮り最終決定することとした。

なお、今後、計数整理等のため変更が必要となったときは、学長に一任願いたい旨の発言があり、併せて承認された。

◇主な意見など（○=経営協議会外部委員、●=大学側）

- 資料に計上されている数値と備考欄にある記述との関連がわかりにくい。書き方が難しい。
- 我々学外委員に、本気で議論してほしいという気持ちで資料は作成していただきたい。これでは熱意が伝わらない。

●次回から資料の表記方法などについて改善する。

4. 給与関係規則の一部改正等について

鈴木理事から、前回会議で「大学教員の定年延長後の給与制度の方針について」が承認されたことに伴う給与関係規則の一部改正等について、「資料4」に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、役員会に諮り最終決定することとした。

◇主な意見など（○=経営協議会外部委員，●=大学側）

- 私のところは、資格級と職務給の2種類があり、その合計がその人の給料となる。大学はこのような“しくみ”ではないと思っているが、給料を削減するうえで本当に良いのは、同じ年齢の人でもバリバリやっている人の給料は下げてはいけない。仕事を流しているような人は、役職も取り上げ、給料も半分にして、全体で7割にするという“しくみ”が良い。一度考えて見てはどうか。
- 例えば“良い学生を育てた”という評価は20年後しかわからないという面もあり、教育に関する評価は非常に難しい。民間・企業ではどのような評価を実施しているのか、次回の本委員会でお教え願いたい。

II 報告事項

1. 平成25年度予算の内示状況について

鈴木理事から、平成25年度予算の内示状況について、「資料5」に基づき報告があった。

III その他

学長から、平成25年3月31日付けで任期満了となる委員への謝辞があった。